

総胆管結石嵌頓症例

総胆管結石に対する内視鏡的ドレナージの実際



消化器内科
黒瀬 龍彦
くろせ たつひこ
 平成5年卒
 日本内科学会総合内科専門医
 日本内科学会認定内科医
 日本消化器病学会専門医
 日本肝臓学会専門医
 日本消化器内視鏡学会専門医
 日本消化器内視鏡学会指導医

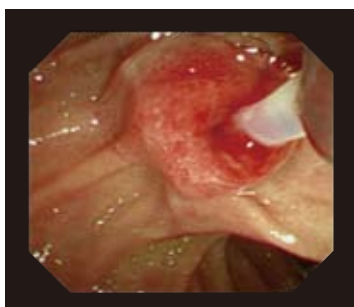
当院今年4月から赴任しました消化器内科の黒瀬龍彦と申します。現在消化器内科は3名で診療を行っており、午前中ではありますが、診療を毎日行っております。自分は消化器内科のうち、主に肝・胆・膵疾患を中心に診療を行っております。赴任後4ヶ月が過ぎ、まだまだ症例数は少ないのですが、7月末現在ERCP関連24件、RFA関連2件を行っております。

今回当院で経験した総胆管結石嵌頓症例を提示します。

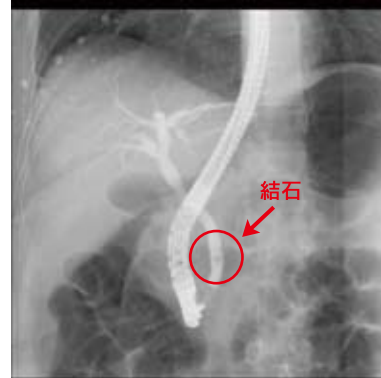
〈総胆管結石に対する内視鏡的ドレナージの実際〉



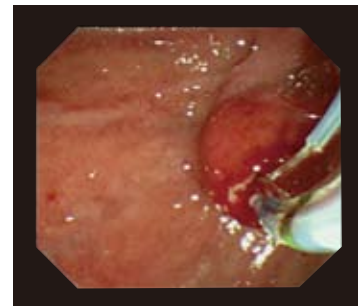
乳頭部および総胆管結石嵌頓による口側隆起の腫大



胆管造影時の内視鏡像



造影にて総胆管結石を確認



EST(内視鏡的乳頭括約筋切開)



採石されているところ

またこの程最新式の超音波内視鏡、細経超音波プローブを導入しました。微細な総胆管結石の有無や、がんの深達度診断、質的診断に大変有用です。

今後、近医の先生方から多数の症例を紹介して頂き、消化器外科の先生方と一緒に力を合わせて皆様に安心して任せられる医療を目指していきたいと考えています。また今まで以上に消化器内科を充実させていきたいと考えておりますので、今後ともよろしくお願ひします。